

## 基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

# 草加市立病院

## 大学との連携による 地域医療の実現



### 特別対談

草加市長

田中和明

東京医科歯科大学長

吉澤靖之

草加市立病院は市民の健康を守るため、救急医療や高度医療を柱に、関連大学である東京医科歯科大学と連携して診療を行っています。今回は東京医科歯科大学長に就任した吉澤靖之教授と田中市長に、草加市の医療や大学と連携した取り組みについて語っていただきました。

### 学長に就任おめでとう いげんます

**田中市長** 4月に東京医科歯科大学の学長にご就任されました。誠におめでとうございます。

草加市の歴史は古く、松尾芭蕉の「奥の細道」に紹介された草加宿の開所以来400年が経ちます。今年の3月18日に草加松原の松並木が「おくのほそ道の風景地 草加松原」として国の名勝指定を受けました。最近では都内への通勤も利便性が高くなり、東京都民ともいえる若い方々も多く住む街となっています。

**吉澤学長** 今日は東京医科歯科大学へお越しいただきありがとうございます。市立病院といえども私も若い頃、新田駅近くにあった旧病院時代に大学から診療の応援に行った記憶があります。しかし、その時は今の施設とは比較にならないほどの規模でしたね。

**市長** 市立病院は国民健康保険直営診療所として開設されてから50年を超えるわけですが、東京医科歯科大学とのお付き合いは、昭和58年からもう30年になります。平成16年に現在の新病院を366床で開設し、平成24年には心臓・脳血管センターも開院させていただきました。この間、市立病院に多くの先生方を派遣いただきありがとうございます。

臨床と教育の現場です。そういう意味でもとても大切なパートナーと思っています。ただ大学には、医学、医療を通して国民の健康に寄与するという大きな課題があります。そのため東京医科歯科大学は「知と癒しの匠を創造する」をミッションに掲げ、豊かな人間性を備えた医師養成に努めてきました。患者や家族の方から「ありがとう」のひと言がいただける医療人を育成したいと思っています。

また、本学は独立法人化して10年ですが、学問的な面では基礎と臨床医学の双方で国際的な実績をつくるという高い目標を掲げています。

### 救急医療と 高度医療の充実

**市長** ご存じと思いますが、現在の草加市立病院の開院当初、医師不足から産婦人科診療が休止に追い込まれるという経験がありました。それ以来、草加市は若い方からお年寄りまで医療における安全安心を守るという視点から、市立病院への援助を草加市の一般会計から行っているところなんです。この財政支援に対して、一部にはご批判も受けて

いますが、最近では異常気象などから近隣で竜巻の被害なども発生し、救急医療や災害医療を行う上で今後も市立病院の役割が大きくなると考えており、引き続き草加市からの援助を行っていきたく考えています。

に大きな理解と援助をしてくださっていることは高元病院長から伺っております。市立病院は一般病院とは違って営利性を追求した病院ではありませんから、どうしても草加市からの支援が必要になります。現在、大学から医師を派遣しているのはこのような公益性のある病院だけです。また、様々な分野で地域医療に貢献することは大学の使命でもあるわけです。最近では、草加市立病院への派遣を希望する大学医師も増えているのではないのでしょうか。

**市長** 市立病院は2年前の心臓・脳血管センターの開設に併せて、新たに心臓血管外科、血液内科、腎臓内科などの診療科を設置して24の診療科となりました。医師数は産婦人科の診療閉鎖後に高元病院長に就任していただいで以来毎年増加して、今年度は平成16年の新病院開院当時のほぼ2倍、98名の体制となっています。このような中で市立病院への市民の期待は大きくなってきているわけですが、地域の医師会との連携を図る中で、市立病院の二次医療機関としての役割を議論してまいりました。救急医療と高度医療に関しては、医療機器の購入や施設整備に多額の費用が必要であり、24時間365日の対応をとる救急医療は、豊富な医師・看護師などの配置が必要となるため、どうしても市立病院が頼りとなると思っています。おかげさまで心臓・脳血管センターに設けたICU・CCUの集中治療室、血液透析